

徳島県立富岡東高等学校羽ノ浦校 学力実行向上プラン

| | | 自 己 評 価 | | 学校関係者評価 | | 次年度への課題と今後の改善方策 | | |
|---|---|--|--|---|------|--|--|---|
| 重点課題 | 重点目標 | 評価指標（と活動計画） | | 評 価 | | 学校関係者の意見 | | |
| | | 評価指標 | 活動計画 | 評価指標の達成度 | 総合評価 | | | |
| I 自主的・主体的な学習習慣を確立し、学力の向上・定着を図る。また、主権者意識を高める教育を推進し、自ら考え、判断し、意見を述べるができる生徒の育成をめざす。 | 《全校レベル》 主権者意識を高める教育を推進し生徒自身が考え判断し実践できることをめざす。また、意欲的に学習に取り組む習慣を確立できるような学習指導の工夫や授業改善に取り組む。 《下位組織レベル》 ①年間2回の相互参観授業の実施や教員研修会、授業評価を通じて、教員の授業力の向上を図る。 [全教員] ②週課題は、思考力の育成や自主的な学習活動に繋げる。 [看護科] ③自主的学習習慣を支援するため、課題学習の工夫・改善を図る。 [専攻科] ④生徒に学習の具体的目標を持たせるため、各テスト(看護科目実力テスト、課題テスト、実習前総合評価、看護科目確認テスト、基礎看護技術実技テスト、模擬試験)を計画的に実施し、事後の個別指導の充実を図る。 [教務課、進路指導課、看護科、各教科担任、HR担任] ⑤主体的学習活動を支援するため、ディベートの実施やICTの活用等、授業の手法を工夫する。 [全教員] ⑥専門領域の教員研修に取り組み、専門科目の指導の充実を図る充実を図る。 [全教員] ⑦家庭学習を充実させるため、予習・復習を必要とする授業展開や指導方法を工夫する。 [全教員] | ①相互授業参観週間を年2回実施し、評価に基づいた授業改善を行う。 | ①「課題発見・解決に向けた主体的・協働的な学び」手法を取り入れる。 ・授業にICTを積極的に活用する。 ・専門領域の外部講師を本年度も継続して招聘し、最新情報を取り入れる。 | ①相互授業参観を11月に実施した。参観者がまとめた感想を基に、授業者と意見交換を行い、授業改善に繋がる等の効果がみられた。 | B | (評定) B | ICTを積極的に活用する等して、生徒・学生の主体的な学習を支援する取り組みがされており、評価できる。 なお、評価指標の③④⑤は目標を達成しており、達成度はAでよいと考える。 主権者教育については、政治や選挙に対しての関心が1学年に比べて3学年が低い原因を分析し、次年度に活かして欲しいと思う。 ⑥一人一人の個性に応じ、きめ細かな指導をしていただけと考える。また、病院実習が校内演習に代替措置になったため、体力・気力にまだゆとりがあったようで、カンファレンス等、より一層深く考えることができたという意見が出ていたようである。一方、授業で使用頻度の低い教科書や使用しにくい教科書の見直しなどをして欲しいという意見も見られたようである。 | 生徒は入学時点で自らの将来の目標を定めている。そのため、学習の必要性を強く認識し、日々真面目に取り組むことができている。 今後は自主的・主体的な学習習慣をすべての生徒に確立させるとともに、考える力や表現する力を育成していく。 また、民法改正に伴う令和4年度の成人年齢引き下げに向けて、主権者教育をより一層充実するために創意工夫が不可欠である。 |
| | | ②週課題の出題内容の充実を図り、テーマを設定した調べ学習を各学期1回以上設定する。 | ②「家庭学習(予習・復習)ができた」が71.8%であった。 | ②調べ学習を各学期1回以上は設定し発表をさせることで思考力やコミュニケーション力の向上につながった。 | A | | | |
| | | ③授業評価で「家庭学習(予習復習・課題)ができた」が70%以上 | ③「家庭学習(予習・復習)ができた」が71.8%であった。 | ③「家庭学習(予習・復習)ができた」が71.8%であった。 | B | 授業評価において「興味・やる気を持って取り組んでいる」と答えた生徒が88.1%、「教員の説明に集中した」と答えた生徒が81.4%であった。教員は積極的にICTを活用し、主体的な学習ができるよう取り組んでいる。主権者教育において、学年が進むにつれて調査項目の数値が低くなっている。「政治や選挙に対して以前より関心が高まった」と回答した1学年生徒は65.8%に対し、3学年生徒は42.1%だった。 | | |
| | | ④授業評価で「発表や質問、返答が積極的にできた」が70%以上 | ④「発表や質問、返答が積極的にできた」が72.9%であった。 | ④「発表や質問、返答が積極的にできた」が72.9%であった。 | B | | | |
| | | ⑤学年末成績平均が60点未満の生徒は、保護者を交えて次年度の学習への取り組みや、学校生活について面談を行う。 | ⑤学年末成績平均が60点未満の生徒は、保護者を交えて面談を行った。また定期考査前にも個人面談を行った。 | ⑤学年末成績平均が60点未満の生徒や成績下降が著しい生徒は、学期末に保護者を交えて面談を行った。また定期考査前にも個人面談を行った。 | B | ⑥一人一人の個性に応じ、きめ細かな指導をしていただけと考える。また、病院実習が校内演習に代替措置になったため、体力・気力にまだゆとりがあったようで、カンファレンス等、より一層深く考えることができたという意見が出ていたようである。一方、授業で使用頻度の低い教科書や使用しにくい教科書の見直しなどをして欲しいという意見も見られたようである。 | | |
| | | ⑥専攻科において、実習後の振り返りを行い、思考判断能力の向上が見られる。 | ⑥臨地実習が校内実習に変更になったことがあったが、模擬患者で看護過程の展開を行いグループ内で振り返りやカンファレンスを行うことで、新たな気づきや学びが得られた。 | ⑥臨地実習が校内実習に変更になったことがあったが、模擬患者で看護過程の展開を行いグループ内で振り返りやカンファレンスを行うことで、新たな気づきや学びが得られた。 | A | | | |
| | | 自主的・主体的な学習の習慣化を図り、ディベートの実施やICTの活用等、授業展開を工夫し、思考力の育成を図る。 | ①「課題発見・解決に向けた主体的・協働的な学び」手法を取り入れる。 ・授業にICTを積極的に活用する。 ・専門領域の外部講師を本年度も継続して招聘し、最新情報を取り入れる。 | ①ICTを積極的に活用し、生徒・学生の発言を引き出す工夫された効果的な授業展開がされている。また、基礎看護、老年看護、成人看護学、小児看護学、在宅看護論、精神看護学の分野で外部講師を招聘し、講演・講義を行った。 | | ⑥一人一人の個性に応じ、きめ細かな指導をしていただけと考える。また、病院実習が校内演習に代替措置になったため、体力・気力にまだゆとりがあったようで、カンファレンス等、より一層深く考えることができたという意見が出ていたようである。一方、授業で使用頻度の低い教科書や使用しにくい教科書の見直しなどをして欲しいという意見も見られたようである。 | | |
| | | ②定期考査や模擬試験返却時、個人面談を行い、個々に応じたアドバイスや指導を行う。 | ②「政治や選挙への関心や政治的事象への関心が以前より高まった」と答えた生徒が70%以上。 | ②定期考査前後に個人面談を実施し、成績不良者に対しては、振り返り学習の指導を行った。 | | | | |
| | | ③定期考査・課題テストにおいて60点に満たない生徒は補充学習を行い、学力の向上を図る。 | ③「政治や選挙への関心や政治的事象への関心が以前より高まった」と答えた生徒が70%以上。 | ③学年末成績が60点に満たない者に対し、担任、学年主任から生徒、保護者に対し面談を行った。また課題テストにおいて60点に満たない生徒は補充学習を行った。 | | ⑥一人一人の個性に応じ、きめ細かな指導をしていただけと考える。また、病院実習が校内演習に代替措置になったため、体力・気力にまだゆとりがあったようで、カンファレンス等、より一層深く考えることができたという意見が出ていたようである。一方、授業で使用頻度の低い教科書や使用しにくい教科書の見直しなどをして欲しいという意見も見られたようである。 | | |
| | | ④「政治や選挙への関心や政治的事象への関心が以前より高まった」と答えた生徒が70%以上。 | ④「政治や選挙に関するホームルーム活動や学校行事等を年3回以上実施する。 | ④「政治や選挙に関する知識を以前より得られた」と回答した生徒は76.5%、「政治や選挙に対して以前より関心が高まった」と回答した生徒は53.9%だった。 | | | | |
| | | ⑤主権者教育に関するホームルーム活動を2回、模擬選挙も実施した。 | ⑤主権者教育に関するホームルーム活動を2回、模擬選挙も実施した。 | ⑤主権者教育に関するホームルーム活動を2回、模擬選挙も実施した。 | | | | |

徳島県立富岡東高等学校羽ノ浦校 学力向上実行プラン

| | | | | | | |
|---|--|---|---|---|--|--|
| II 臨地実習での指導方法を工夫し支援体制を整備するとともに、看護師国家試験合格をめざす。 | 《全校レベル》 | 評価指標 ①個々に応じた指導に取り組む。適切な資料の提供等生徒が実習しやすいような支援体制を整える。 | 評価指標による達成度 ①実習中は個別指導を重視し、担当教員が連携し支援体制の充実を図った。参考図書等の資料整備も行った。 | 総合評価 A (所見) 臨地実習において生徒は全員、まじめに取り組むことができています。困難を感じる生徒もいるため個々の状況に応じて指導方法を工夫した。実習中の学びを授業や演習に取り入れ意欲の向上を図ることもできた。 | 本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、臨地実習が厳しく制限され、先生方の苦労も大きかったと拝察する。そのような環境にあっても、実習指導の充実を図り、生徒を心身ともにサポートされていることは、高く評価したいと思います。また、長年、看護師国家試験合格率100%を維持しており、素晴らしいと感心した。③④⑤クラスの生徒が一丸となり、夕方遅くまで残り、みんなで看護師国家試験に向け勉強していたとの報告があり、日々の積み重ねが定着していた。 | 生徒の大半が真面目で前向きに看護教育に取り組むことができている。しかし、臨地実習の専門性が深まるとともに支援が必要な生徒が数名いるので、サポート体制を強化していく必要がある。指導に当たっては、心身ともに温かくサポートすることを再認識し、実習指導の充実を図っていく。 |
| | 《下位組織レベル》 | ②臨地実習指導者との連携を密にし、生徒の問題を早期に把握し適切に対処できる。 | ②実習場のスタッフと密に連携を取り生徒の状況把握に努めた。校内演習中も気になる生徒については、個別面談等を行い、早期解決を図った。 | | | |
| | ①看護科と専攻科の連携を深め、臨地実習指導の充実を図る。 [看護科教員] | ③臨地実習終了後は、生徒全員に、実習場面の振り返りを行わせ、思考判断能力を育成する。 | ③臨地実習や校内演習の終了時点で、実習を振り返っての学びと反省をそれぞれにまとめ発表した。 | | | |
| | ②実習時における個別・グループ別指導の充実を図る。 [看護科教員] | ④専攻科において、各模擬試験の有効活用を図り、必修問題8割、一般問題7割に満たない者は再試験を実施する。 | ④再試験は、テスト終了毎に記述式問題や口頭試問を取り入れ、知識の定着に努めている。 | | | |
| | ③臨床側指導者と密接な連携を図る。 [各施設担当者] | ⑤専攻科において、国試演習では看護師国家試験の出題基準を網羅し、内容の充実を図る。 | ⑤教科の各領域で、出題基準を研究し、看護師国家試験演習に取り組んだ。 | | | |
| | ④国試演習の充実を図る。 [進路指導課] | 活動計画 臨地実習を通して学びを深め、看護師国家試験に意欲的に取り組めるようにする。 | 活動計画による実施状況 臨地実習での経験を校内での授業や看護師国家試験過去問題と関連させ、意欲の向上につなげるよう努めた。 | | | |
| | ⑤模擬試験の有効活用に取り組む。 [進路指導課] | ①校内の講義・実習と臨地実習との関連を図り、適切な教材の提供を行う。臨地実習事前レポート課題の内容を精選し、長期休業前に提示する。 | ①病院や病棟の特徴に合わせ臨地実習の事前レポート課題内容について精選を図った。実習中も状況によって、課題を追加した。 | | | |
| | | ②臨地実習中は随時、個別指導を行うとともに、専門書を活用させ、自ら学ぶ環境を整える。 | ②実習中の記録指導において文献を活用した根拠を持った記録が書けるよう個別指導を行った。 | | | |
| | | ③実習内容の報告を徹底し、生徒・教員間で連絡・相談を行う。 | ③日々、報告・連絡・相談や情報共有の重要性について指導し、徹底を図った。 | | | |
| | | ④専攻科において、各模擬試験の得点率が、必修問題8割、一般・状況設定問題7割以上になるまで再テストを実施する。 | ④校外模試、校内模試共に、終了後すぐに、再テストや口頭試問で不足している知識について個別指導をしている。 | | | |
| | ⑤専攻科において、補習や国試演習は習熟度別等のグループに分け、個に応じた指導を行う。 | ⑤習熟度別の2コースに分けることにより、より具体的な指導に繋げている | | | | |

徳島県立富岡東高等学校羽ノ浦校 学力向上実行プラン

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| <p>Ⅲ 挨拶, 言葉遣い, 礼儀作法, 時間やマナーを守る態度と好ましい人間関係を育成し, 看護師として必要な資質の向上を図る。</p> <p>《全校レベル》 基本的生活習慣の確立をめざし, 挨拶の励行や望ましい言葉遣いや態度, マナーを身に付けさせる。 《下位組織レベル》 ①毎学期の生活目標を持たせ主体的に行動できるようにする。 [各HR担任, 生徒指導課] ②「服装・マナーアップ週間」を設定し, 頭髪服装指導に取り組むとともに, 相手や場に応じた言葉遣い, 礼儀, 挨拶, マナーについて自己評価させ, 社会的素養を高める。 [生徒指導課] ③生徒会や生活委員等によるあいさつ運動を積極的に展開する。 [生徒指導課・特別活動課・人権教育教育相談課] ④いじめの未然防止, 早期発見に努める。 [生徒指導課] ④防災教育の充実を図り, 災害から身を守り, 自らの安全を確保するための行動ができる能力を育成する。 [環境防災課]</p> | <p>評価指標</p> <p>①学期目標の自己評価の「できた」が平均85%以上。 ②各学年で, 毎月服装・頭髪指導を実施し, 指導を受ける生徒が5%以内。 ③挨拶や会釈ができる生徒が90%以上。 ④適切な応対ができ敬語が使える生徒が90%以上。 ⑤いじめ防止対策として, 情報収集に努め, 職員間の共通理解を図る。 ⑥スクールカウンセラーと連携を図り, 生徒の悩み等の支援体制を整備する。 ⑦防災訓練を年3回行い, 生徒全員が適切な避難行動ができる。 ⑧専攻科において, 自主・自律的に身だしなみについて考え, 行動できたと自己評価した生徒が90%以上。</p> | <p>評価指標による達成度</p> <p>各学期の生活目標について, 「できた」が平均96.7%となった。 A 月初めの一斉服装・頭髪指導の対象者は2%となった。各学年とも第2学期前半に指導を受ける生徒が多い。 A 挨拶や会釈できる生徒が93.2%となった。 A 適切な応対と敬語が適切に使える生徒が90%という結果になった。 B 年間3回「いじめ体罰アンケート」を実施し, 疑いのある事案については, いじめ防止対策委員会を5回実施(2学期末現在)した。また, 職員研修ではスクールロイヤーの派遣を県に申請して, 法律に基づくいじめ対応について共通理解を図った。 B スクールカウンセラーと生徒及び保護者の面談は延べ59回実施した。 B 年に3回防災訓練を実施することができ, 避難行動をとることができた。今年度はスクールアインネットを活用し, 安否確認の訓練を2回行うことができた。 B 学校評価アンケートの「身だしなみはきちんとしている」という項目では93.3%となった。 A</p> | <p>総合評価</p> <p>B</p> <p>学校評価アンケートの「先生にいろいろな悩みを相談できる」という項目において, 看護科は53%, 専攻科では50%という結果になった。専攻科では昨年と比較すると20%上昇している。身だしなみやマナーについては高い評価となっている。登下校中にイヤフォンを使用しない割合が93.2%となっており, 啓発の成果が確認できた。</p> | <p>いじめの疑いのある事実についても, スクールロイヤーを交えて, 適切に対応がなされている。また, 教員に色々な悩みを相談できる生徒・学生が, 看護科で53%, 専攻科で50%と多く, 特に専攻科では, 昨年に比べて20%増加しているのは, いじめに対する対応や生徒・学生への積極的な声かけ等の効果の表れだと思う。引き続き, 教員間やスクールカウンセラー等と密に連携し, 支援をより一層充実させて欲しいと思う。</p> <p>⑤資料のグラフの「ホームルームは楽しい」という質問の聞き方を変えるなど検討が必要でないか。</p> <p>⑥⑦学校・家庭・地域の連携及び協力を図り, 三者一体の地域ぐるみの教育活動を希望する。また, 避難・防災訓練等の取り組みを地域・他学校へ発信し, 活発化してはどうか。</p> | <p>生徒全員が, 挨拶や言葉遣い等, 社会人としてのマナーを身に付けようとしている。生徒は成長発達過程であることを認識し, 5年間を通して支援・指導をしていく。また, 生徒の様子に常に気を配るとともに, 保護者との連携を密に取り, 適切な指導のあり方を更に検討し, 信頼関係を深めていく。特に発信された小さなSOSを見逃さず, 適切な対応ができるように, 教員間での正確な情報共有体制を見直す必要がある。</p> |
| | <p>活動計画</p> <p>生徒指導やマナー指導について, 全教職員で共通理解のもと, 協力して取り組む。教育相談支援体制の強化を図り, 生徒がいろいろな悩みについて相談しやすい環境を整備する。</p> <p>①HR活動のテーマに, 「パブリックマナー」を取り上げ, 意識の向上や強化に努めるとともに, 実践力の向上を図る。</p> <p>②遅刻回数や欠席回数の月別累積を集計し, 結果をもとに指導する。</p> <p>③生徒会役員や生活委員等を中心に「あいさつ運動」を行う。</p> | <p>活動計画による実施状況</p> <p>学校評価アンケートの「生徒指導方針に賛成である」という項目では生徒及び保護者ともに95.8%となり, 昨年との比較では生徒が3.3%, 保護者は5%上昇している。スクールカウンセラーや阿南警察署等の関係機関との連携も行い, 個別の相談に対応する体制を整えている。</p> <p>年度当初に「パブリックマナー」をテーマとした一斉ホームルーム活動を実施した。生活委員会が実施したアンケートによると「道いっぱいになって歩かない」は98.3%, 「汽車に乗るときは入り口付近に立たない」という項目で97.9%となった。</p> <p>月に3回遅刻をした生徒に対し, 学年団で指導を行っている。ほとんど指導の対象になった生徒はいない。</p> <p>6・9・11・1月の年間20回のあいさつ運動を実施した。</p> | | | |

| | | | | | |
|--|--|--|--|---|--|
| | | <p>④ T P O に応じた礼儀や言葉遣いの指導を行う。</p> <p>⑤ 教員から生徒への声かけやながらカウンセリングを充実させる。</p> <p>⑥ 専攻科において、看護科で身につけた身だしなみやマナーをさらに向上させる。</p> | <p>職員室の入退室時や各行事での所作や言葉遣いなど、全て学校生活の場面で常時指導している。</p> <p>学校評価アンケートの「先生に いろんな悩みを相談できる」という項目において、看護科は53%、専攻科では50%という結果になった。昨年の数値より高くなっており、特に専攻科では20%上昇した。</p> <p>身だしなみについては、良い印象を与えコミュニケーション力を高める一つの手法とし清潔な服装及び着こなしを心掛けるように指導している。学校評価アンケートの「時間やマナーを守る取組がなされている」という項目では、75.7%という結果となった。</p> | <p>Zoom 等を用い、本校のアピールをもっとして欲しい。また、地域の方との連携を強め、その方々の力を学校に取り入れていく事も学校の活性化に繋がると考える。</p> <p>②③④⑤⑥先生方のご指導、素晴らしい環境をうまく活用し、教育活動をされている結果だと考える。</p> | |
|--|--|--|--|---|--|